

異校種や地域との連携を活かした 道徳教育の在り方 —豊栄地域連携型中高一貫教育を基盤として—



広島県立
賀茂北高等学校

生徒指導主事 柳楽 和人

広島県立賀茂北高等学校の概要

- 大正3年創立 平成27年に100周年
- 全日制普通科 在校生徒146名(各学年2クラス)
- 校訓「感謝 遵法 思考」
- 3つの類型設置(文理, キャリア情報, 福祉)
- 平成17年度 豊栄中学校と連携型中高一貫教育を展開
乗り入れ授業, 合同教科部会等
- 平成24年度 イギリス Whitley Academyと姉妹校提携
- 平成25年度から河内高等学校と学校間連携
- 地元中学校からの進学率が60%

東広島市 豊栄町について

- 広島県の「へそ」(中央部)に位置する。

- 豊かな地域資源に恵まれる。
 - ①地域との密接な関係, 豊かな教育力
 - ②自然環境に恵まれる(遺跡群の存在, オオサンショウウオの生息地など)

地域が学校, 地域が先生, 地域が教材



生徒実態(第1学年)

- 教職員の指導を良く守り, 素直でのんびりとした生徒が多い。
- 小規模の学校で生活してきた生徒が多い。
- 自分に対して自信をもてない生徒が多い。
- 学級委員などリーダー的役割を経験した生徒が少ない。

研究計画(基本方針)

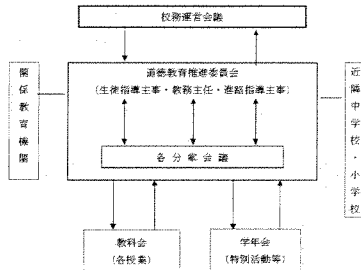
- 本校における道徳教育推進体制の見直し
- 連携型中学校や小学校と連携した体制づくり
- 地域の教育資源を最大限に活かした教材づくりや授業の構築
- 今まで本校で行ってきた「総合的な学習の時間」などの取組を、「道徳性育成の視点」で捉え直す取組

校内体制について

道徳教育推進のポイント

- 教職員間で道徳教育に係る共通理解を図る。
- 計画的・継続的な指導を行うための組織づくりを行う。
- 推進上, 基軸となる機会と場を設定する。
- 固有の指導内容・指導方法, 教材を開発する。
※中学校の道徳教育を基盤として
- 自分の生き方を社会のかかわりで探求させる。

校内推進体制図



実施計画(第1学年を対象として)

● 主となる取組

- ①学習ボランティア(地元の小学生とともに)
- ②中高合同体育大会(連携型中学校生徒とともに)
- ③シバザクラの植栽(地域の教育力の活用)

校訓を達成させるための視点

	学習ボランティア	中高合同体育大会	シバザクラの植栽
「感謝」	小学生への卒業実習を通して、「感謝される」ことに対する自己有用感(シバザクラ)を体験 【小学生と共に】	異年齢集団による団体行動を通して、リーダーシップやフォローアップを体験 【中学生と共に】	同級生と一緒に地域の活性化の一つである農耕体験に貢献することによって第二卒業体験 【同級生と共に】 【地域と共に】
「遵法」	異年齢集団 ・協力的な態度や責任感の育成	異年齢集団 ・協力的な態度や責任感の育成 ・規範意識の向上	異年齢集団 ・協力的な態度や責任感の育成
「思考」	自己の確立 ・「下級生へのいたわりや思いやり」とは ・自分の役割は ・ボランティア活動とは ・コミュニケーションの取り方	自己の確立 ・「あこがれの異級生」とは ・自分の役割は ・協力的な態度とは ・コミュニケーションの取り方	自己の確立 ・町志しとは ・自分の役割は ・地域よびながりとは ・環境保全とは

具体的な取組(1)

学習ボランティア活動

地元の3小学校(豊栄地区1校、福富地区2校)を9グループに分け、それぞれの場所で2日間、連続して夏休みの小学生の学習をサポートする。



● 生徒の振り返りから

「子どもたちが一生懸命頑張っている姿を見て、自分自身も、もっと頑張らなければならないと感じた」

「1日目は声をかけられなかったが、2日目は積極的に話せたし、子どももなついてくれた」

高校とは違う
「自信」「輝き」



具体的な取組(2)

中高合同体育大会の実施

連携型中学校である豊栄中学校との合同体育大会(今年で2回目)

○合同行事として体育大会以外に、

- ①中高合同文化活動発表会(10月)
- ②芸術鑑賞会(11月)
- ③「総合的な学習の時間」実践報告会(2月)
- ④豊栄町内駅伝(次年度2月に実施予定)

● 生徒の振り返りから

(中学生)

「片付けの早さなど、さすが高校生だと思った」
 「高校生と一緒に応援してくれて嬉しかった」

(高校生)

「自分たちで行事を作り上げる感じが盛り上がった」
 「中学生を引っ張れなかった」



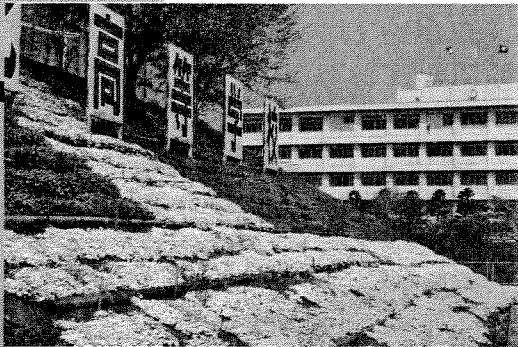
具体的な取組(3)

シバザクラの植栽

○地域の「乃美エコクラブ」が、地域の活性化(観光資源)と、陸地の省力管理を目的に実施している。

○毎年4月下旬に行われる「シバザクラ祭り」には県内外から多くの観光客が訪れる。

○創立100周年に向けて、計画的に植栽(第1学年)



シバザクラによる絵画 テーマ:「板綱山から吹く風」

植栽の手順

道徳性育成の視点

- ①
 →④
 防草
 ち、届
 場の
 れる
 入れ
 定着
- ・協同的な態度や責任感の育成
 - ・同級生と一緒に地域の活性化のための取組の1つである景観形成に貢献→郷土愛を醸成

取組の実際について

● 生徒の振り返りから

「思ったより大変な作業だったが皆で協力して何かを成し遂げるすばらしさが実感できた」
 「自分たちが知らないところで大変な苦勞をしながら町おこしをしていることを知り、素直に尊敬した」

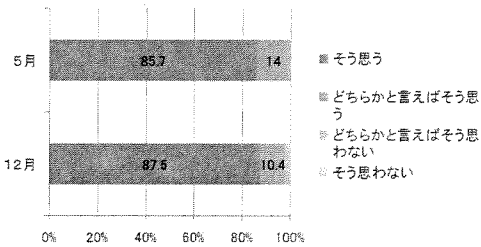


達成感の共有
 植栽の長期化

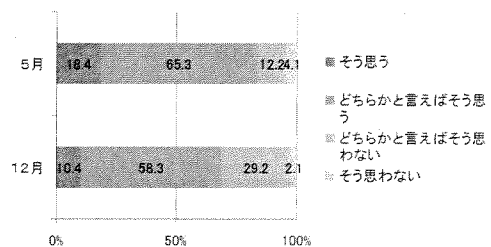
研究の評価

- 平成24年度「小・中・高等学校道徳教育実践研究事業」における生徒の意識調査
- 実施時期 1回目 平成24年5月末
 2回目 平成24年12月末
- 対象学年 第1学年

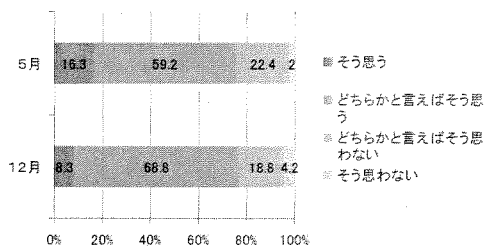
人には親切にしたい。



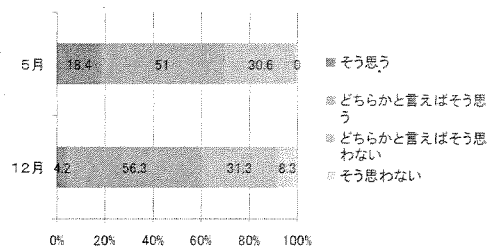
自分にはよいところがあると思う。



特別活動「ホームルーム活動」などでは、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている。



今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。



アンケート結果等の分析

(成果)

- 人に親切にしたいと強く思う生徒が増加 (85.7%→87.5%)
- 自分のよいところを強く否定する生徒が減少 (4.1%→2.1%)
- 自分のことをよく考えようとする生徒が増加 (75.5%→77.1%)

(課題)

- 自分自身を肯定的に捉えられる生徒が大きく減少 (83.7%→68.7%)
- 地域の歴史やふるさとの自然に関心のない生徒が増加

今後に向けて

- 日常的な教育活動において、道徳性育成の視点を持った継続的な実践
- 道徳教育推進体制の確立(全学年での取組)
- 地元の小学校や中学校との連携強化 (コーディネーターの配置)
- 教材開発・活用
- 地域の人材や教育資源の更なる活用

ご清聴 ありがとうございました。